

学習内容報告書 フォーマット

学校名	世田谷区立用賀中学校
授業者	藤井徹平、川名由佳、木村翔梧、武藤純輝、宇野慎吾、斉藤昭徳、

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

1 自由研究・SDG s について調べ学習を行う

1-2. 学年

1 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合 理科

1-4. 単元の概要

環境破壊が叫ばれる現在、様々な環境について知り「持続可能な社会」について自ら学習し、課題を見つけ考えることができるように生徒に学ばせる。
--

1-5. 単元設定の理由・ねらい

<p>この社会には様々な環境があるが、都会に住む生徒たちにとって一番遠いのが海洋である。最近海水浴も日焼けが嫌われ下火になりつつあり、海洋環境に関する興味関心の低下がみられる。</p> <p>第1学年総合では、SDG s について調べ学習から、発表を行った。</p> <p>最後に、保健体育の授業とタイアップして、下水道について学ぶ機会を設け、海洋環境保全が決して他人事ではないことを学んだ。</p>
--

1-6. 育みたい資質や能力、態度

<p>専門家の講話を積極的に聞き、それをきっかけに自分の問題としてとらえ、自ら課題を見出し、解決していかうとする生徒を育成する。</p>
--

1-7. 単元の展開（全 18 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
----	-----------	------------------------------

1	夏休みに興味のあるSDG sについて調べておくように宿題。	
2 ～ 5	SDG s 新聞の作成 必ず、選んだ理由と自分で調べたことの感想を書く。	調べが少ない生徒へのフォロー
6 7	・クラス内発表 投票で素晴らしい発表をした生徒の投票	
8	・学年発表	・PDF ファイルに変換しプロジェクターでスクリーンに投影。
9	・教員が撮影した海や海岸の映像を見て、環境について理解を深める。 ・理科の時間に魚類について学んだことや、海洋プラスチックについて知っていることを書き出し整理をする。	・指導：生徒の知識を引き出す。 評価：積極的に取り組めたか。
10	1 講話 ・黒潮実感センターとの連携 「人と海とが共存できる場所 里海について	外部連携：黒潮実感センター 教材：WiH i、PC、プロジェクター、
11	・まとめ 学んだことをまとめる ・お礼状の作成	・指導：海洋プラスチック問題について理解が深まるように指導する。 目上の方へのお礼状の書き方
12	・理科の時間に魚類について学んだことや、漁業について知っていることを書き出し整理をする。 ・次の時間の予告	・指導：生徒の知識を引き出す。 評価：積極的に取り組めたか。
13	下水道について。現在知っていることや、学びたいことを書き出し整理する。	
14	下水について、外部講師の講演を聞く。 ・下水の歴史 ・水をきれいにする原理 ・トイレトペーパーの種類と変化 ・下水道の種類 ・海洋と下水道 ・下水道にとって避けたいこと	・身近な下水が海への入り口であることを意識させ、学ばせる。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・ 5 黒潮実感センター「海の中の森づくり」について学ぶ

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none">・ 講師の方のお話 NPO 法人黒潮実感センターのセンター長・神田 結様を講師にお迎えし、テーマ「海の中の森づくり」でZoomによる遠隔授業により1学年全体が体育館で講演をしていただきました。黒潮実感センターは高知県柏島を拠点に活動しており、「島が丸ごと博物館」と捉えて、持続可能な里海づくり目指した活動を行っています。間伐材や枝葉を有効活用したアオリイカの産卵床設置や藻場再生などの取り組みを紹介して頂きました・ 漁業関係者の今日の状況と私たちができること	<ul style="list-style-type: none">・ 講師紹介

3. 今回の活動の自己評価

- ・ 講義を聞き、自分たちの生活を変化させることできたか。
- ・ SDGs 14 がより深く理解できたか。

4. 今後の課題

- ・ 都心部であり海に近くない環境の生徒たちが、今後も海洋環境保全に意識して取り組むことが継続できるか。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・ 外部講師をお招きするにあたっての、日程調整。

※実施した単元ごとに作成してください。